



ジェネラルマネジャーの 役割について

国立病院機構 九州がんセンター

緩和ケアセンターセンター

ジェネラルマネジャー（相談支援係長兼任） 竹山由子

福岡県の現状

北九州ブロック

福岡ブロック

筑豊ブロック

筑後ブロック



- ・ 411床のがん専門病院
- ・ 9割ががん患者
- ・ 緩和ケア病床は有していない
- ・ 緊急受け入れは通院中の患者のみ

福岡県がん診療連携協議会

専門部会

教育・研修
(九州大学病院)

専門部会

がん登録
(九州大学病院)

専門部会

地域連携・情報
(九州がんセンター)

専門部会

緩和ケア
(九州がんセンター)



ジェネラルマネージャーとは

「がん診療連携拠点病院等の整備について」

緩和ケアセンターの機能を管理・調整する、専従のジェネラルマネージャーを配置すること。

ジェネラルマネージャーは、常勤の組織管理経験を有する看護師であること。 ➡

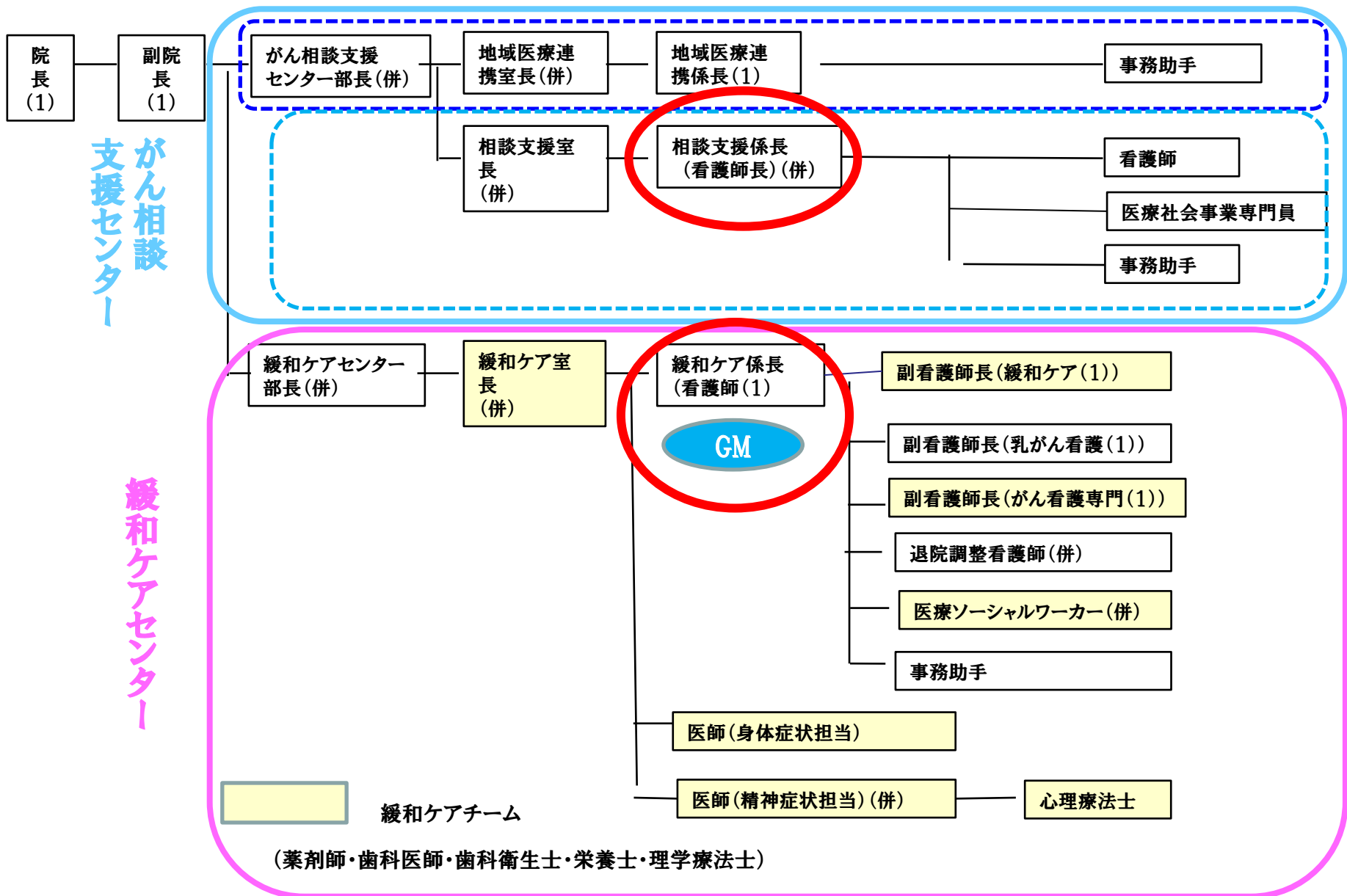
竹山:院内外のマネジメント・体制づくり

また、公益社団法人日本看護協会が認定を行うがん看護専門看護師又は緩和ケア認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師のいずれかであることが望ましい。 ➡

がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師・乳がん看護認定看護師：
ダイレクトケア・スタッフ教育・GMと共同しての体制づくり

九州がんセンターの組織図

(緩和ケアセンター・がん相談支援センター、H28.2.29まで)





主にスタッフの相談、マネジメント、体制づくり

緩和ケアセンター

副看護師長3名

(がん看護専門看護師・緩和ケア認定看護師・乳がん看護認定看護師)

- 毎日のミーティング(看護師)
- 毎週のスタッフミーティング
(センター長・室長・身体症状担当医師・心理士・看護師)
- 毎月のコアミーティング
(センター長・室長・身体症状担当医師・心理士・事務・看護師)
- 入院外来の苦痛のスクリーニングとその対応
- 各科のカンファレンスへの参加(病棟・外来)
- 看護外来の運営
- 看護師への緩和ケア研修の企画
- 緊急緩和ケア病床についての運用
- 地域との緩和ケア連絡会議開催
- 緩和ケア作業部会
- 緩和ケア管理委員会
- 研修会の企画・運営
- 福岡県緩和ケア部会企画・運営
- 福岡県行政との連携

がん相談支援センター

前方地域連携

がん相談

後方連携

・ 対外プロジェクト(市民・医療機関・医療従事者・患者会との連携)

都道府県拠点病院としての相談員のとりまとめ(連絡会議・研修会の企画運営)

地域連携・情報専門部会相談支援WG

独立行政法人国立病院機構九州がんセンター



今の仕事内容からみえてきたもの

緩和ケアセンター立ち上げ・がん相談・退院支援・地域連携

- ・がん相談には、標準治療が終わった後の相談、療養場所の選択、これからの不安など、緩和ケアに直結する相談が多い。
- ・退院支援・退院調整は、正に意思決定支援であり、「死」に関することは避けては通れない内容である。
- ・地域連携⇒開業医の先生方が抱えているがん患者さんに対する困りごと。「緩和やってよ。痛みや終末期の入院対応」



緩和ケアセンターの役割

- 苦痛患者の拾い上げ
- がん看護カウンセリング(がん看護外来)の実施
- 看護カンファレンス
- 緩和ケア研修の実施
- 院内でのカンファレンスの開催

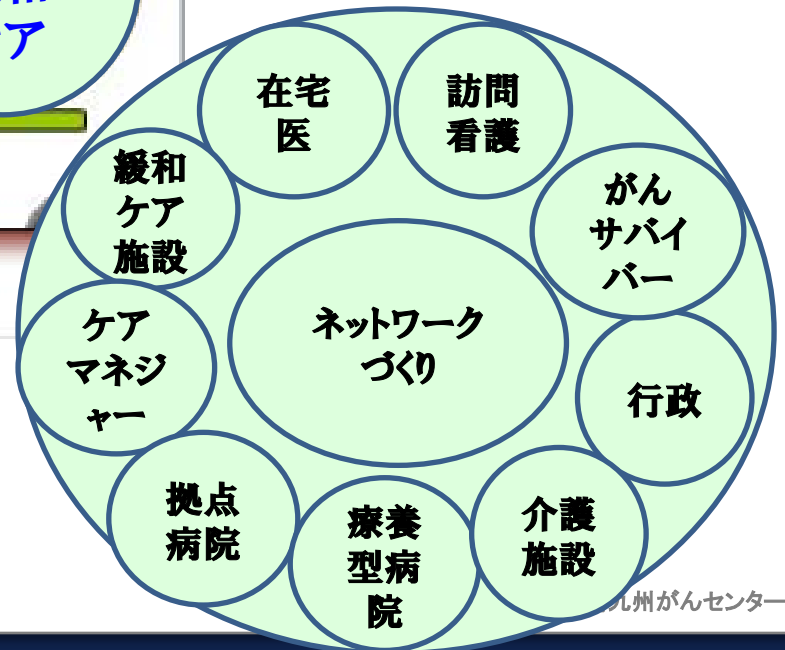
自施設
の緩和
ケア

- 緊急緩和ケア病床の確保
- 緊急受け入れの体制づくり
- 各診療科とのカンファレンス
- 地域とのカンファレンス・連携
- 相談支援センターとの連携
- 緩和ケア研修の企画・運営
- マンパワーの確保
- 病院幹部との交渉

地域の
緩和
ケア

拠点病院の役割

- 福岡県緩和ケア部会の立上
- 拠点病院内での認識の共有とPDCAサイクルの確保
- WGを立ち上げ、緩和ケアパスなどの作成を行う
- 拠点病院相互チェックの体制整備
- 地域の実情把握
- 地域との緩和ケア研修会



九州がんセンター



ジェネラルマネージャーとして院内で強化したいこと 緩和ケアへの理解を深める

1. 苦痛のスクリーニングの活用

(アドバンス・ケア・プランニング (ACP):

あなたの気持ちの確認用紙)

①病棟

- 患者へのフィードバックができていない。
- 看護師がどう対応しているかわからず、患者の気持ちを聞くことができない。
- 医療者間で共有できていない。
- I.C.にどのように活用していくか。

ACPの用紙に記載してくれている患者さんの思いをしっかりと医療者が受け止め、患者・家族と思いを共有していくために、院内全体で議論を深めていきたい。



ジェネラルマネージャーとして院内で強化したいこと: 緩和ケアへの理解を深める

②外来

(化学療法を対象に、曜日限定の導入である。)

- ・全患者にどのように拡大していくか。
- ・新病院への移転で体制が変わることや、マンパワーの問題もあり、外来看護師の協力が得られにくい。
- ・医師からの声
苦痛の拾い上げやその対応など非常に助かっている。新患の患者など不安が強いので、どんどん拡大してほしい。

スクリーニング用紙に関係なく、患者家族が自ら相談できる体制、
医師や外来看護師が気軽に依頼できる体制をどのように創り上げていくか。
問題となるマンパワーの確保をどうしていくかが課題である。



ジェネラルマネージャーとして院内で強化したいこと 緩和ケアへの理解を深める

2. 疼痛アセスメントシートの活用

(緩和のクリティカルパスとして使用)

- 電子カルテに切り替わり、疼痛アセスメントシートの記載が不十分
- 医師と看護師間での共有ができていない
- 院外への情報提供ができていない

3. 意思決定支援

(特に緩和ケア主体への移行時のチーム医療の困難さ)

- 患者、家族、主治医、病棟看護師、退院調整担当者、院外医療スタッフのギャップ



ジェネラルマネージャーとして院内で強化したいこと: 緩和ケアへの理解を深める

4. 病棟や外来の連携強化

院内での統一したケアの提供:カンファレンスの充実

5. 緊急緩和ケアへの理解を深める

24時間365日入院受け入れの体制が可能なのか。

* 緩和ケア連絡会議での在宅支援診療所の医師の声

(新患は、平日の時間内の受け入れからスタートすることを提示)

⇒そもそも緊急の受け入れではないですね。

地域のニーズに応じていくために、当直体制や緊急時の受け入れ体制など病院全体での意識の統一を図っていく必要がある。



地域でのジェネラルマネージャーの役割 ネットワークづくり

- 院内と院外の医療者の認識のずれの解消
- 拠点病院ー在宅支援診療所ー緩和ケア施設の連携強化
- 地域のネットワークづくり
(在宅支援診療所・訪問看護ステーション・緩和ケア施設・
診療所・薬剤師・歯科医・ケアマネジャー・包括支援センター・
介護施設・調剤薬局・がんサバイバーなど)



福岡県におけるジェネラルマネージャーの役割

- ①福岡県全体で、緩和ケアに対する相談窓口の周知
- ②福岡県内での緩和ケアの均てん化
- ③拠点病院間の相互チェック体制の整備
- ④行政との連携
- ⑤地域の医療従事者と拠点病院スタッフの共同研修会の開催
- ⑥市民への啓発活動
- ⑦福岡県内の緩和ケアに関する研修会やネットワークの見える化
- ⑧患者サロンの充実



ジェネラルマネージャーの役割(竹山私見) 1

- がん相談支援センターと緩和ケアセンターの業務内容を切り離すことは難しい。
- 都道府県拠点病院の緩和ケアセンターは、県全体の緩和ケアの推進を視野に入れて活動していく必要がある。
- がんの専門看護師や認定看護師の役割とマネジメントする管理者の役割を分けてもいいのではないか。

九州がんセンターでは、
「緩和ケアセンター」と「がん相談支援センター」を統合して、
「患者・家族支援センター」ユニットを開設し、
がん患者・家族支援を更に充実させていく予定。

ジェネラルマネージャーの役割(竹山私見)2

- 自施設の緩和ケアの充実はもちろんのこと
- 患者さんにとっての最善の緩和ケアが提供できるように地域で考え連携し
- 福岡県のどこに住んでいても、安心して暮らせる社会を県民みんなで作っていく



がんサバイバーとも力を合わせ、行政を巻き込み、福岡県全体のネットワークを創っていけるように、まずは拠点病院で力を合わせることはないでしょうか。



九州がんセンター新病院 2016年2月27日オープン



病む人の
気持ちを
大切にする

初代院長 入江英雄書

私たちは「病む人の気持ちを」そして家族の気持ちを尊重し
温かく、思いやりのある、最良のがん医療をめざします。

初代院長の書

家族の
気持ちと

2代院長の書

ご清聴ありがとうございました。